

輪  
乃  
榮  
榕

七

ホ 2
621
2止



蛇乃さう記

し巻

○虚字の事

洞よつきて咄は早急し虚字は爲にしく是悟  
さればさむるなりきしけりしゆりまのわらはるまの  
おのれさのきしゆりまの漢語の文字はまににゆりて  
大方違ふのゆりて見ゆきしゆりまは行一をたむ  
らりて同しゆりまのきしゆりまのゆりまの行要し  
ゆりまのゆりまのゆりまのゆりまのゆりまのゆりまの

○唯

唯ハ字書に專辭也と注きりながらにもして押重なり

唯ののし詞乃とに首に重くしこの先世と詞の平に  
わら種一 唯有詞の月とあまるとし先づけ唯の  
字をく重く 唯とてさるるもあまも  
とさるる種一とさるるもあまも  
人とあめつ名夜の詞をけ板ひしとさるる唯の世のせ  
け方の唯の字をく重くさるる事、唯字は人  
さるる種一とさるる種一とさるる種一とさるる種一  
白法とてさるる 千五百歳が命一  
唯とてさるる種一とさるる種一とさるる種一とさるる種一  
志良の刺し種一とさるる種一とさるる種一とさるる種一

け方の唯の字をく重くさるる事、唯字は人  
さるる種一とさるる種一とさるる種一とさるる種一  
唯とてさるる種一とさるる種一とさるる種一とさるる種一  
志良の刺し種一とさるる種一とさるる種一とさるる種一

○種

唯の詞乃とに首に重く詞の下にあり種一唯のまれ  
傷とてさるる種一とさるる種一とさるる種一とさるる種一  
らんさるる種一とさるる種一とさるる種一とさるる種一  
のまれの種一とさるる種一とさるる種一とさるる種一  
さるる種一とさるる種一とさるる種一とさるる種一

之辭とほせらるはまふこころの通きり

○早

早も咄の例も詞のころる重く相乃下るる  
神くを其のにおもはれお世に陰んころる  
今もやあつ物もよころ物に律を引く及  
伊勢物語の例もよもあつてあつてころる  
早れあつてあつて書るころる不昧直後殿出流し

○先

先は字書に前進也とほきり ちと集り  
世の中乃つてもつてもつても先き物に海なりころる

けふの先の詞もあつて千載集に

相に枯乃つてもあつて先き物に  
若二書より先の詞字眼におかた世の中つても  
まもほつてもつても先き物に相毎に  
秋のうもあつてあつて先き物に  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
一そにつもあつて先き物に字眼とあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

○57

いでハ祭神と言はれ先き物に



とくはるまはちのむしむしあひひり我ひのむと  
あるハ又そのあはれもく一古書に為當とあり  
古今集よわらけりまゝのむきもくこと借白紙  
よるハ 書 神のくらしと祿とことよるむ  
物の字と借白の終小を事これ漢家の又素片は見  
及んとあはれもく和漢あはれむらむらむらむら  
初めしむしむらむらむらむらむらむらむらむら  
りる事乃一むらむらむらむらむらむらむらむら  
法とあはれむらむらむらむらむらむらむらむら  
○又

又ハ字書に更也再也一海きり又ハ字にむしむらむら  
みろはらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
よるハ更ハ再の意ハむらむらむらむらむらむらむら  
あハむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
け初め又あはれむらむらむらむらむらむらむらむら  
あハむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
とよ亦のむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
ついで遠嶋津のむらむらむらむらむらむらむらむら  
又あはれむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

後多ね院湯刺又やん又やん作らむいふるあゝも  
殊におしもりしれもつりさきふはよふかよと東極  
禪門のれま建入るの又やんいふるいふるいふる  
はよもいふるおれ又やんいふるいふるいふるいふる  
の強さき 千五百歳にふ合  
春乃月辰のうらにまおれいふるいふるいふる  
忠貞の刺なういふる又いふる又のまやを月にかいふる  
ひきおまふ又のまに申れいふるいふるいふるいふる  
一まの理りいふるいふるいふるいふるいふるいふる  
○且、

且、字書に發語辭又未定之辭也と注あり  
はましくいふる由いふるいふるいふるいふる  
いふるいふるいふるいふるいふるいふるいふる  
あううそ女といふるいふるいふるいふるいふる  
いふるいふるいふるいふるいふるいふるいふる  
はあれいふる未定之辭也發語に袖いふるいふるいふる  
あううううといふるいふるいふるいふるいふる  
いふるいふるいふるいふるいふるいふるいふる  
これおのいふる小補韻會に將家注且也といふる今  
のいふるいふるいふるいふるいふるいふるいふる

注與文同與此同と云け注を以考す方に且  
その又此のをいおあるお

○かつく

○かつくいぬく女この心拾遺集に

君の海心八百代とあるは心くくさるる

新勅撰集に

秋の月より一糸と海をくくくその海

是くぬくこの心通す

後撰集に

の心もつた心いぬく心くくく

けらにあれ二糸と海をくくくこの心  
の心くくく

○かて濁清

かてい消そまをくくく心くくく

けら言の心これ心くくく心くくく

けらと心消よ心くくく且消心くくく

又言く心く心く心く心く心く心く

心く心く心く

心く心く心く心く心く心く心く心く

心く心く心く心く心く心く心く心く



































すくへてやうてと子行も心くししと銀嶽後殿の  
御統りの續後撰集よ

藤代乃みさうはあきくえりむの辰もやぬゆとれ後  
はあきくやあむの辰もぬしむれむをたもたれと深  
く此前とあきくむの辰代のむさうはあきくむの辰も  
辰もあきくむの辰もぬしむれむをたもたれと深  
時辰もあきくむの辰もぬしむれむをたもたれと深

○わりの

けいけいけいけいけいけいけいけいけいけいけいけいけい  
ぬきくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

えとらやうわくく不敷也敷ハ字書一決之辭説文進  
取也一注きり

妹とたのけのめめよ色かきききききききききききききき  
きききききききききききききききききききききききき  
からきききききききききききききききききききききき  
流ききききききききききききききききききききききき  
にからききききききききききききききききききききき  
新よきききききききききききききききききききききき  
あきくむの辰もぬしむれむをたもたれと深

○まきり







いふなりと一但まゝにたゞしきものなるが多  
く見及まじらざるもあつて速乃が録しきなり

○やうて

於く、邊也点卒れあつて端的なるものなり  
千載集に

いふなりと一但まゝにたゞしきものなるが多  
く見及まじらざるもあつて速乃が録しきなり  
○やうて  
於く、邊也点卒れあつて端的なるものなり  
千載集に  
いふなりと一但まゝにたゞしきものなるが多  
く見及まじらざるもあつて速乃が録しきなり

是後形く村もいふなり

いふなりと一但まゝにたゞしきものなるが多

いふなりと一但まゝにたゞしきものなるが多

いふなりと一但まゝにたゞしきものなるが多

いふなりと一但まゝにたゞしきものなるが多

いふなりと一但まゝにたゞしきものなるが多

同集に按る

いふなりと一但まゝにたゞしきものなるが多

千載集に

いふなりと一但まゝにたゞしきものなるが多







○あさひ

情の志のあはれとよ字書小性之動是情也ト注せり  
ひかりをいふと思ひつるさけりや世にうかたれ  
又まを思ふのあに

林の枝のけのさけも人と守り葉はひらけり  
けの林間煖酒焼紅葉とつる詩の心はひらけり酒は  
まらなまけとむむと酒ふよとまらなまけ初葉の  
人も酒よとまらとむむと心はひらけり酒は  
不昧まはるるの情もまらとむむと初葉の  
百草の花もいふとありあはれ情もまらとむむと

情の志のあはれとよ字書小性之動是情也ト注せり  
ひかりをいふと思ひつるさけりや世にうかたれ  
又まを思ふのあに

○あさひ

情の志のあはれとよ字書小性之動是情也ト注せり  
ひかりをいふと思ひつるさけりや世にうかたれ  
又まを思ふのあに











平安御山堂教書和書目錄

儒書醫書佛書各別  
目錄別あり

八代集抄

山村季隆  
五七冊

數字假名卷

三冊

源氏物語抄

三冊

古今和歌集

古今二冊

萬葉假名卷

三冊

名女物語

五冊

同

可珍本竹紙抄  
三冊

能因歌枕

三冊

女訓抄

六冊

古今榮雜抄

古今和歌集  
十六冊

世法物語

三冊

經年

六冊

三玉集歌題

七冊

宇治六通物語

三冊

叢林和歌集

三冊

伴勢物語

二冊

宗祇秘傳抄

三冊

俳諧武玉川

抄本  
紀述十冊

新古今和歌集

小本  
四冊

伴勢物語卷抄

五冊

川口抄

抄本  
紀述五冊

幽齋室書全書

細川幽齋  
二冊

可樂記傳刺

八冊

川口抄

上下  
紀述五冊

三石抄

長明  
二冊

新仙令玉抄

三冊

川口抄

五冊

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

大發白帳	拾冊	琴曲抄	八冊	書札文言指南	三冊
萬壽百人一首	三冊	拉琴雜譜集	三冊	身中風文章	中村三遊子 五冊
冠玉百人一首	三冊	琴之組	三冊	常用文林	日 三冊
小倉百首風凰卷	內及玉枝 三冊	孝札抄	三冊	庭訓雜集後抄	三冊
女策志	長谷川如自 三冊	一代書用筆林字體	中村三遊子 三冊	七宝庭訓	三冊
日 春日野	三冊	日 新板	三冊	童字雜集	世及物 三冊
日 雲升稿	三冊	文通書用字便覽	日 三冊	童字原抄	三冊
女消息及文庫	四及玉枝 三冊	日 民維集	五冊	萬家商賣雜集	古抄 三冊
身中庸義訓袋	三冊	拾玉用文章	三冊	式目假名附	三冊
女訓詠教訓歌	三冊	書札字法	中村三遊子 三冊	大和雜集	三冊
志本今川	三冊	萬家書用集	三冊	潛藏子	二冊
同書札集	三冊	極字及用集	三冊	元三大師山家抄	三冊
童家書札	三冊	書翰及用集	三冊	日 二ノ諸抄	二冊
新撰胡詠	三冊	世活字畫	三冊	裁物祕傳	三冊
男節用如意家珠	三冊	字教大全	三冊	匠家必用記	五冊
悉皆世活字彙	三冊	改集記大成	三冊	保元平治初段	六冊
後壽節用集	三冊	但馬湯山道中記	三冊	家業道徳論	三冊
書札及用要字海	三冊	御家文新列記	三冊	雜歌柳乃綿	三冊
大之節用及字海	三冊	鷹之書	三冊	御家道彙	三冊
廣大節用集	三冊	世室傳及袋	三冊	信年寄宿梅	七冊

後平元紅葉 西川祐信筆 三冊

同 朝日山 日 三冊

同 子歲山 日 三冊

同 技業画巻 橋守國 五冊

同名勝画巻 長井兼房筆 四冊

同 玉如壺 末刻 六冊

同 奉納画苑 橋守國 六冊

至道便系抄 五冊

同 腰録 三冊

同 具足巻 三冊

十粒香之記 五冊

同 校正新板 五冊

香道秘傳 三冊

同 奥の系 大枝麻芳 四冊

同 龍之系 大枝 三冊

同 朝の玉 大枝 三冊

京都書林玉枝軒

同 出店

同 出店

同 出店

香之系乃祝 大枝 四冊

同 後録 末刻

同 宿水梅 上野宗彦 三冊

同 秋北之 大枝 四冊

立花正道集 三冊

拙入峯九波 大枝麻芳 三冊

堀川五三 上野宗彦 三冊

堀村藤右衛門

堀村藤次郎

堀村藤三郎

安永七年七月

京都

書林

江戸

秋田屋平兵衛

植村孫右衛門

採藻堂

伏見屋善六



